

CUBAに行ってきました！！ 2008. 7. 24～8.03

お暑うございます！ と言いたところですが、ここ何日か、25度前後の日が続いています。

1年前いやそれ以上前から計画していた「キューバ11日間の旅」が実現、無事に帰国しました。わたしにとって、この旅は、遡ること約5年、坂戸中学校勤務時、担任の松矢先生から薫陶を受けて以来、《ひょっとしたら・・・》という予感のようなものがありました。当時、クラスの生徒が、朝、「オーラ」と教室に入ってきたものです。

「坂中東上ウォーク」と名づけたウォーキングの会にも一緒するようになりました。キューバから帰国される度に、熱っぽく語られる松矢先生を見て、わが夫乗勝は、「あんなにいい顔で話すんだから、きっといい所なんだろう」ということで、我が家は、2人でいくことになったという次第です。決定は早かったですよ、本当に！

さて、8月3日、午後3時過ぎ成田に到着、久しぶりの日本は、「何だ、こりゃキューバより暑い」このひとことでした。海外旅行は4回目、もちろん今回は断然、いろんな意味でBIGワンでした。

今、「GUANTANAMERA」を聞いています。よみがえってきますよ、あの感覚、あの乗り、そして、オスワルドが。この感激を忘れないうちにと想いつつ、ペンをとっています。

☆ まず写真《BEST3》です

- ① サンタクララのホテル《ロス・カネイエス》にてバンドのメンバーと。折り鶴をプレゼントしました
- ② バナナの花・・・是永さん宅で 「バナナの花が咲いているのよ」の言葉に庭に出ました。興奮しました
- ③ ジョン・レノンと一緒に DVD「永遠のバナナ」の冒頭の場面です。そこに2人で割りこみました



☆ CUBA の人・物・せいかつ・・・

「たった7泊の滞在で何がわかるの？」ですよね。でもでも訪問したところどころで、「ちょっと違うよな、日本と・・・」と想うことがけっこうありました。

★7月25日午後、ホセ・マルティ空港からサンタ・クララに向けてバスに乗るときのこと、空は暗く雷の中を走りこんでいる私を見て、ベンチでおしゃべりしていたおばちゃん数人、ケラケラ笑いながら見送ってくれました。屋ひなか、暇そうにしているけど仕事はどうなっているのかな…これが噂に聞く「おおらかさ」なのかなと実感しました。

★次は犬の話。これはサンタ・クララに行く途中、ドライブインで食事した時のことです。初めてのキューバ料理に、緊張しながらフォークを進めていました。そこへ、野犬が1びき、2ひき、3びき、しまいに子犬も含めて10匹近くになり、少ないエサを取り合ってるで闘犬のよう。不思議なことに、全部、メス犬。お乳をいっぱいつけて、序列もしっかりありました。オスワルドいわく、「オスは働かない」

★トリニダー（世界遺産）では、7～8歳の子どもにリュックに付けていたコアアラをねだられました。石畳の路地で「いざ、かいもの！」と、目が泳いでいる時です。少し前に他の子に鉛筆を上げていたのを見たのです。アッという間に人だかりができて、「安易に物を上げてはいけない」と反省。母親とおぼしき人は、洋服の胸を開けて「私にも、何かちょうだい」という素振りです。たくましい！？物が豊かな日本では絶対に見られない光景です。



人・物・せいかつ…つづきます

★タオルがゴワゴワしていた…DVD「永遠のハバナ」には、一般の暮らしがここかしこに写し出されています。ぼろぼろになったタオル（布）をお風呂や台所で使っていました。もちろん、ホテルのはふっかふか。ところが是永さんのお台所には、ゴワゴワで茶色になった手拭があったのです。それも薄くなったモノを2から3枚重ねて縫ってあるものなんです。私の母も「もったいない」と言って縫い合わせていたのを懐かしく思い出しました。日本も50年前はそうだったんだ、でも幸せだった。バスの足元マットすり切れていました。

★貨幣価値の話…観光客がつかうお金はCUC（兌換ペソ）、現地通貨はCUP（ペソクバーナ）と言います。

24 CUP = 1 CUC という計算になります。ハバナの自由市場に行ったときは、現地通貨のみなので見学だけでした。バナナの値段が1本1 CUP。ということは、何と1兌換ペソで24本のバナナが買えるのです。

★最後はトイレの話です。便座がない、水が出ない、チップが必要…などなど、話には聞いていましたが、一番驚いたのが、オルギン空港（地方都市の空港）のトイレのドアが閉まらなかったこと。（中国のトイレよりはいいか）旅行中、女性軍で協力、不満よりはあきらめ…ですね。サンティアゴ・デ・クーバ（世界遺産）観光の後のレストランは、トイレの横に冷蔵庫がありました。順番を待っていると、ウェイターさんがビールを持って迷惑顔で通りました。気にしない、気にしない！

有機共同農場(UBPC)訪問…この話題は避けて通れない

キューバ旅行も終盤にかかり、ハバナ郊外の有機共同農場を訪問しました。日本では、有機といえば「高い」というのが相場、ところが、当地は、1991年のソ連崩壊で、農業・燃料・機械がなくなり国の政策により有機農業に転換した国。その意気込みは「半端ではない」、なんせ生きていかなくてはならないのだから。前日の教育・医療関係者との懇談会と同じくらい興味深いものでした。

★「転換」で苦労していること（代表者の話）…以前は、農業や化学肥料がないと農業がやれないと思い、心理的にブロックされていた。人間にはいい農業なのに生産には時間がかかり、世界的にはレベルは高くないと見られている。大学では、コンピュータを学ぶ人は多いが農学を学ぶ人は少ない。農業に必要なのは、いい総支配人と社会的な専門家である。原則は、自給自足、社会的な意義は、利益を上げること。

★実際に見学して…トマトはないのですか？という質問に、今は暑すぎて栽培はできない、9月から作るそうです。多分、キュウリだと思うのですが、品種改良中のため、ビニールハウスに網が張ってあって中には入れませんでした。圧巻は、ミミズの養殖でした。ミミズの糞と落ち葉が肥料となっているので、「みみず様様」といったところですよ。ひまわりやマリーゴールドは害虫よけのためだそうです。ノニ、グアバ、アセロラなどのトロピカルフルーツは食べ放題のひとときでした。



支倉常長像がなぜハバナにあるのか？

オールドハバナ（世界遺産）のアルマス広場からすこし行ったところに支倉常長の像があり、見てきました。常長は、江戸時代の初期、仙台藩の伊達政宗により慶長遣欧使節の大使として派遣された人。1613年10月28日、仙台藩牡鹿半島の月の浦を発ち、メキシコ経由でスペインに向かう途中、ハバナに滞在しました。

★滞在期間…16日間 1614年7月23日～8月7日

★使節に一行がこの間、何をしたかは分かりません。メキシコのベラクルス（カンペチュ湾）を発って13日間でハバナに到着。メキシコではアントニオ・オケンドの船隊に乗船、ハバナでは、アンダリス司令官の艦隊に乗り換え、60日間かけて10月5日に南スペインのサンルーカル港に到着。ちなみに、コロンブスは大西洋横断に90日間かかったということです。

★支倉常長像は、侍のかっこうで、右手を上げています。どこを見上げているのでしょうか。

この像は、2003年、仙台の仙台育英学園の財団によってハバナ市に寄贈されました（年号はちょっと怪しいです）。東北3大祭りと鳴子こけしのパネルが像の周りを囲んでいました。

★日本がキリスト教弾圧国であったため、常長は各地で厄介者扱いをされ、帰国後は、キリシタン禁令のもと、偉業は報われず、お家断絶になるなど不運な人生だったようです。



えとせとら etc...

今回、夫婦で参加したのが私たちだけでした。「どうしてふたりで来たの？」その後「えらいね」とつぶやきます。わが夫は、「どうして一人で来たの？」と、迷回答でけむにまいていました。(o)

この旅行記、かなり、ミーハー的につづってきました。書き残したことがまだまだいっぱいです。

★サンティアゴ・デ・クーバ（今回のツアーで一番東に位置する。革命が始まった場所）近くにある、**エル・コブレ教会の守護神（マリアさん）**は、金色のドレスをまとっていました。カトリック教徒だけではなく、アフリカのサンテリア信者にも信仰されており、聖地として全国から巡礼者が訪れるということです。DVD『ブエナ・ビスタ・ソシアルクラブ』には、サンティアゴ・デ・クーバ生まれのイブライムが自分の生い立ちを語る場面があります。イブライムが信仰している神様もドレスを着ていたことを思い出し、帰宅してから確かめたところ、それは、**物乞いの神様「聖ラサロ」**で、白いドレスをまとっていました。イブライムの祖父は、アフリカ出身です。その中で、イブライムは、「感謝の心を忘れない。物欲をたどっていたらキューバはとっくに滅びていただろう。小国だが抵抗を知っている。いい意味でも悪い意味でも…」と言っています。

★ゲバラのこと、カストロのこと、ラム酒、ビール…話は尽きません。そして、15人の仲間の方たち、

本当に楽しかった。値切るのが上手！と誉められたこと、一緒に踊ったサルサ（踊らずにはいけない）。そしてオスワルド…きりがありません。皆に感謝、健康に感謝しながらペンを置きます。 坂戸市 津嘉田（つかだ）和子

花・木も愛でました



フランボヤ いたる所にありました



トリニダーにて 名前不明です



ヤシ 誰が食べるのでしょうか



浜昼顔 カリブ海の浜辺で
2008キューバツアー（津嘉田和子）



ベンジャミン サンティアゴ・デ・クーバ



アボガド ハバナの是永さん宅